

350年以上の歴史を継承し続ける… 福島町松前神楽保存会

◆今回は「福島町松前神楽保存会」の会長であり、福島大神宮の宮司でもある常磐井 武典^{ときわい たけのり}さんを取材させていただきました。福島町松前神楽保存会は現在8名の会員で活動しており、本年3月8日には、『松前神楽』が国の重要無形民俗文化財に指定されました。少ない人数ではありますが、福島大神宮例大祭を始めとした行事等で神楽を披露するため、日々練習を重ねています。



▲「八乙女舞」
(千軒そばの花鑑賞会)

始まった年代は正確に分かっていませんが、350年から400年ほどの歴史があると言われています。およそ500年前に武田氏がアイヌ民族との戦いを鎮圧し、松前藩の基礎を作った後、狂言や社人の舞を行ったのが『松前神楽』が行われるきっかけとなったそうです。しかし、当時は「鱧御神楽」、「秋味御神楽」と呼ばれており、正式に『松前神楽』の名称が使われたのは、文化三年(1805年)であるという記録が残っています。

問1. 『松前神楽』の始まりは、いつ頃ですか？

全部で33座ありますが、よく目にされているものとなりますと、「獅子舞」や「福田舞」などが、皆さんが特によく目にされている演目かと思えます。

他には、黒や白の翁面を被る「三番叟」や「翁舞」、倭人とアイヌ民族の戦いを、長刀を使って表現する「兵法舞」などがごいます。

また、2人の巫女が扇子を持って舞う「八乙女舞」は、他の保存会も含め一度途絶えてしまったお神楽でしたが、約15年前に先代宮司が復活を成し遂げ、最近まで他で見ることのできない演目でした。

演目内では、「大太鼓」、「小太鼓」、「手拍子」、そして神楽笛ではなく、雅楽に使われている「龍笛」の4種類の楽器を使用します。

問2. 松前神楽の演目は、何座あるのですか？



▲「獅子舞」 ▲「福田舞」
(殿様街道探訪ウォーク)